

環境市民活動 助成金セミナー 開催報告



会場全景

- 開催日…2016年9月11日（日）
- 時間……14:00～17:30
- 会場……豊橋市民センター 市民活動プラザ
6階 多目的ホール
愛知県豊橋市松葉町二丁目 63番地 カリオンビル
- 主催……NPO法人 地域の未来・志援センター/
一般財団法人 セブン-イレブン記念財団
- 共催……豊橋市民センター 市民活動プラザ
田原市民活動支援センター、
渥美半島環境活動協議会
- 後援……愛知県、田原市、田原教育委員会、豊橋市、
豊橋市教育委員会、環境省中部地方環境事務所、
渥美半島生態系ネットワーク協議会
- 協力……なごや環境大学、
環境省中部環境パートナーシップオフィス
- 参加者数（目標数）……21名（50名）
その他参加者9名（講師、理事、スタッフ）

< 当日プログラム >

時間	内容	登壇者
14:00	セミナー開会	
14:05-14:15	主催・共催団体挨拶・趣旨説明	地域の未来・志援センター 竹内由美子 (一財)セブン-イレブン記念財団 萩原啓吾 豊橋市民センター 市民活動プラザ 朝倉三恵
14:15-15:10	基調報告 『西濃環境NPOネットワークの経験から』	西濃環境NPOネットワーク 副会長 神田浩史様
	質疑応答（10分）	
15:10-15:45	助成制度紹介	
	1. 「2017年度環境市民活動助成」	(一財)セブン-イレブン記念財団 萩原啓吾
	2. 「カワサポ」	(一社) ClearWaterProject 岡本亮太様
	質疑応答（5分）	
15:45-15:55	休憩	
15:55-17:10	座談会 「助成金を活用して事業展開→ 自立の道筋について」	進行：地域の未来・志援センター 渡邊幸久

17:10-17:20	資金調達ガイドブック案内、入会案内、 アンケート記入	
17:20-17:30	閉会挨拶	地域の未来・志援センター 理事 萩原喜久
17:30-	セミナー閉会 個別相談会 & 自由交流会 (17:40~18:00)	

< プログラム進行の様子 >

今回の助成金セミナーは、中部の団体の多くが直面する次の三大課題——『活動者の高齢化』『活動が広がらない』『担い手不足』を直視し、この問題について講師、参加者、当団体のメンバー全てで解決の方途を探ることを試みました。

そのため、単独では難しい課題解決を地域のネットワークで突破しようとスクラムを組む「西濃環境NPOネットワーク」の副会長 神田氏に基調報告を行っていただき、助成団体からの制度紹介が行われたのちに、「自立への道筋」と題し、会場全体で課題について話し合う座談会を行いました。

セミナーには、豊橋市や近隣の田原市、新城市だけでなく、遠く、中津川市や豊田市からの参加者もあり、座談会では環境団体が連携して課題解決に取り組むためのプロジェクト創出と、そのための助成金活用→実施がさらにネットワークの連携を強めるという意見が出されたり、三大課題を抱える各団体の具体的な悩み・そのアドバイス等が飛び交う活発な話し合いが行われました。

◆主催団体挨拶・趣旨説明

開会に先立ち、当法人理事長竹内由美子と、(一財)セブン-イレブン記念財団萩原啓吾氏より開会の挨拶がなされました。

竹内理事長からは、本セミナー趣旨説明として、今回のセミナーターゲットは、都会型NPOではなく地方型NPOであることが述べられました。そして、それら活動団体の中には、助成金をとらずにやってきた団体が多いが、上記『三大課題』を抱えているのは同様であり、地域の多様な人間関係をベースとした協働をいかに実現するかが、今、問われていること、そうした活動を先駆的に行っている「西濃環境NPOネットワーク」の神田氏に基調報告を依頼した旨などが話されました。そして、萩原氏からは、このセミナーの場が、参加者の皆さんの忌憚ない意見交換の場となり、さらに活動が広がっていくきっかけとなることを期待する旨が述べられました。また、共催の豊橋市民センター・センター長 朝倉氏の挨拶では、本日、環境問題に取り組む団体が集って、学び、語り合う中で、多くを持ち帰っていただきたいと述べられました。



↑ 【開会挨拶・趣旨説明】
地域の未来・志援
センター 竹内理事長



↑ 【開会挨拶】(一財)セブン-イレブン
記念財団 萩原氏

◆基調報告

次に、「西濃環境NPOネットワーク」副会長 神田浩史氏より、2006年の発足以来、揖斐川流域の市民活動団体が協働して地域課題に取り組んできた歴史、協働事業における資金調達・助成金活用についてご報告いただきました。

報告前半、10年にわたる活動歴の紹介では、「西濃地域レジ袋削減プロジェクト～レジ袋を断って住民の森を創ろう」に始まり、「エコライフ推進プロジェクト」へのバージョンアップ、さらに「マイバッグ」「マイはし」「マイパック」活動をポイント化し、植樹権やエコグッズ（天然せっけんやぼかしなど）と交換する活動を、約20団体が協力して推進してきたことをお話しいただきました。これらの活動を実施するため、いくつかの助成金を活用したそうですが、初期段階は、もっぱら事務局団体がその役割を担っていましたが、徐々に複数団体が申請して採択されるようになり、そのことが団体の基盤強化につながったことが紹介されました。

次に、揖斐川流域2市9町とかなり広域に及ぶ連携が、なぜ10年も続けられたのか？についての考察が述べられました。その第一の要因は、『相互理解の促進から緩やかな価値共有』ができたこと、それができたのは、初期段階で互いに知り合うための巡回研修（一泊二日）を行ったこと等があげられました。会議だけの付き合いでなく、寝食を共にして語り合う中で信頼関係が深まり、それにつれ、流域循環を軸とした地域づくりネットワークとして活動が進化していったこと、そして、岐阜県内の揖斐川流域が一緒になって揖斐川クリーン作戦を実施するまでになったいきさつが話されました。

まとめでは、西濃環境NPOネットワークの資金調達、運営の特質として「資金調達を複数の参加団体で行って一団体に頼らない」「人材の融通、資金のやりとり」「団体個々の資金調達の充実が、ネットワーク全体の活動を活性化」「有給職員の居る団体が適度に分散」「緩やかな共通価値の形成」があげられ、今後は、こうしたネットワークを活かし、市町村枠を越え、市民からの政策提言・制度構築をしていくことが目標との考えが述べられました。

会場からは「現在抱えている課題は単独で解決するのは難しい…連携する中でアイデアが生まれ、人材も育っていることが感じられた」「仲良くなるには、時間がかかることがわかった」などの声が聞かれました。

◆助成制度説明

引き続き、(一財)セブン・イレブン記念財団の萩原氏より助成制度紹介、(一社)ClearWaterProject 岡本氏から「カワサポ」というクラウドファンディングの仕組みについて説明が行われました。

(一財)セブン・イレブン記念財団 萩原氏からは、まずは、本助成のしくみの大元である「財源はお客様の募金＝もともとはみんなのおカネ」という点が改めて説明されました。そして、具体的な制



↑【基調報告】西濃環境NPOネットワーク 神田氏



↑ 神田氏のお話を熱心に耳を傾ける参加者



↑【制度説明】(一財)セブン・イレブン記念財団 萩原氏

度説明では、「NPO基盤強化助成」は1人分の人件費が設定されているが、その分、審査のハードルが高くなっていること、「活動助成」は、それに比べてチャレンジしやすいこと等が紹介されるとともに、冒頭の竹内理事長の趣旨説明をうけ、地方では、助成金をとらなくても活動できると考えている団体が多いというのが実状かもしれないが、活動をステップアップさせるため、助成金を活用することは有効であることなどが説明されました。

(一社) ClearWaterProject 岡本氏からは、まずは、クラウドファンディングの仕組み「カワサポ」の特長＝水辺・流域環境を改善する活動を支援する、というコンセプトについてお話いただきました。支援の事例としては、国交省が河川保全の資金調達方法としてカワサポの活用を推進し、北海道と浜松でプロジェクトが実施されたこと、『畑の青空教室』というプロジェクトでは、資金調達を行った団体に対し、同じくカワサポを利用した里山団体を紹介し、青空教室で使う机やいすなどの木材購入を橋渡しするなど団体と団体をつなぐ活動にも力を入れていること等をお話いただきました。



↑【制度説明】(一社)
ClearWaterProject 岡本氏

また、支援メニューには『団体支援』と『プロジェクト支援』の2種類があり、カワサポならではの充実したサポート体制や気になる手数料の説明、支援募集のための広報活動の考え方についてご説明いただきました。

◆座談会

15:55より始まった約1時間15分間の座談会は、今年2月の情報交流会 in 渥美半島をきっかけに発足した「渥美半島環境活動協議会」(ネットワーク組織)の事務局長を務める当団体理事・渡邊の司会で進行されました。まず最初に、参加者全員の自己紹介を行い、各団体に今回のセミナーで持ち帰りたいこと、皆と話し合いたい悩み等を発表してもらいました。

その後、それぞれの課題を詳しく聞き、それに対して、参加者全員が一緒になってアドバイスを送り合うカタチになりました。



参加団体の発言では、前述三大課題が深刻であることが浮き彫りになりました。岐阜県中津川市から参加した恵那山みどりの会からは、認定NPOを目指すほど地域で知名度のある団体となったが、実状としては、活動者の高齢化、担い手が不在で会員も減り、収入減で財政難・人材難に苦しんでいる状況が話されました。次に「整備のための機械を購入する費用を助成金で賄えるのか知りたい」と参加された豊橋湿原保護の会が発言され、そのように考える背景を掘り下げてみると、活動者の高齢化→作業ができなくなる・若手の参加者はいない→圧倒的な担い手不足……従って、機械の導入で何とかしようとしている実状がわかりました。こうした課題について、助成申請を行う際の考え方はもちろんのこと、新規活動者獲得や若者とつながるための様々なアイデア、そして、地元団体同士の連携の重要性についてのアドバイスが会場より出され、豊橋湿原保護の会のメンバーからは、「渥美半島環境活動協議会」への参加意思が示されました。

◆閉会挨拶

当法人の萩原理事による閉会挨拶では、ネットワーク組織が本当に機能を果たすためには、神田氏の報告でも述べられた相互理解や信頼関係の醸成が大切であること、それを培うためには、会議だけでは難しく、宿泊し、その地域ならではの食を共に楽しみながら語り合う機会等が欠かせないことを、渥美半島で2月に開催した情報交流会の豊かな夕食会の写真を使って紹介。ネットワークや協働を実現する手法を、理屈だけでなく、心と体で感じ取る重要性を示し、本セミナーは終了しました。



↑【閉会挨拶の様子】

◆個別相談会

セミナー終了後は、会場レイアウトを変更して、個別相談会を実施しました。登壇いただいた助成団体のブースのほか、当法人理事による事業自立相談のブースも設け、参加者各自の個別具体的な課題に対して相談が行われていました。

以上